

東カリブ諸国機構（OECS）6か国月間情勢報告
（アンティグア・バーブーダ、ドミニカ国、グレナダ、セントルシア、セント
クリストファー・ネービス、セントビンセント及びグレナディーン諸島）
（2024年3月）

在トリニダード・トバゴ日本国大使館

3月の東カリブ諸国機構（OECS）6か国（注）の内政、経済、外交月間報告は以下の通り。

（注：アンティグア・バーブーダ（アンティグア）、ドミニカ国（ドミニカ）、グレナダ、セントルシア、セントクリストファー・ネービス（セントキッツ）、セントビンセント及びグレナディーン諸島（セントビンセント））

1 内政

- （18日、20日アンティグア報道）人間開発指数（HDI）において、アンティグアは世界193の国と地域の内54位となり、前回の71位から17位順位を上げた。
- （7日セントキッツ報道）2017年にセントキッツのCBIプログラムで同国の市民権を取得した中国人女性が15億ポンド相当のビットコインを詐欺に企てた首謀者であったことが発覚し、政府は同氏のパスポートを無効にした。

2 経済

- （4日セントキッツ政府発表）IMFは対セントキッツ4条協議を終了。2023年は慎重な財政政策と投資による市民権（CBI）の好成績により、3.4%のGDP成長率を記録したと発表。2024年はさらに4.7%の成長を記録する予定。
- （11日ドミニカ及びグレナダ報道）ドミニカとグレナダがラテンアメリカ開発銀行（CAF）に加盟。
- （13日アンティグア報道）アンティグア公共事業局（APUA）は米Seven Seas Water Group社と2基の海水淡水化プラント建設に関する契約を締結。同社は右プラント建設に約2,300万米ドルを投資予定であり、2基のプラントは合計日量300万ガロンの水を供給する見込み。
- （18日セントキッツ報道、19日セントキッツ政府発表）アラブ首長国連邦はカリブ再生可能エネルギー基金を通じ、2基の太陽光発電式の海水淡水化プラントを贈与。今後セントキッツ島とネービス島にそれぞれ1基ずつ設置され、各プラントは日量最大7.6万ガロンの淡水を生産予定。

- （19日アンティグア報道）日本政府とアンティグア政府は、日本から2基目となる海水淡水化プラントの供与に関する協定書に調印。同プラントの生産能力は日量約33万ガロンとなる見込み。
- （26日アンティグア報道）環境省は小規模分散型水循環システムを開発する日系企業WOTA社と、製品実証及び導入に関する覚書を締結。

3 外交

- （1日セントビンセント報道）第8回CELAC首脳会合において、現議長であるゴンザルベス・セントビンセント首相は、CELAC常設事務局設立を提案。
- （5日ドミニカ報道）アイルランドはドミニカ国民に対する査証発給制限を発表。2023年7月に英国がドミニカのCBIプログラムを懸念しビザの発給を制限したことを受け、近隣諸国と足並みを揃えることを目的とした模様。
- （20日、22日、23日、25日ドミニカ報道）スケリット首相は、ドミニカと中国の外交関係樹立20周年を記念し中国を訪問。習近平国家主席、李強首相及び中国共産党中央政治局常務委員会閣僚と会談を実施。両国は、二国間の相互信頼、活発な交流及び様々な分野での協力拡大を約束。また、両国外交樹立20周年記念レセプションを開催。
- （21日セントビンセント報道）台湾はセントビンセント国内の2つの中学校への実験室建設に関する協定に調印。同建設はTX財団を通じてそれぞれ28,652米ドルと77,391米ドルの資金援助で実施される予定。
- （23日アンティグア及びドミニカ報道）アンティグア、グレナダ、ドミニカ及びセントキッツは、4カ国間でCBIプログラムに関する協力と情報共有の枠組みを提供し同プログラムを強化することを目的とする覚書を締結。